

YAESU

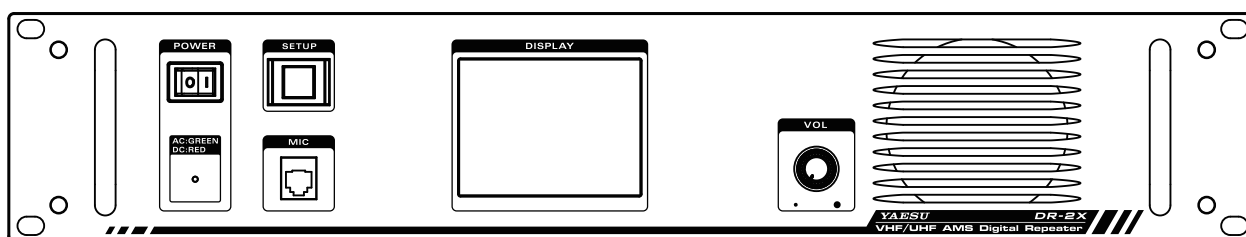
Radio for Professionals

System Fusion

DR-2XJ

UHF FM Repeater

取扱説明書



製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書に記載の社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	1	メッセージの自動送信間隔の設定	21
タッチパネルについて	1	メッセージの自動送信回数の設定	21
登録商標および著作権について	1	DR-2XJ でメッセージを録音する	23
本書の読みかた	1	メッセージを録音する	23
安全上のご注意	2	録音したメッセージを再生して確認する	24
電波を発射する前に	4	録音されているメッセージを削除する	25
設置と接続方法	5	リモート操作	26
設置上のご注意	5	リモート操作のオン / オフ	26
DR-2XJ の設置例	5	各種設定	28
アースについて	6	セットアップメニューの基本操作	28
アンテナ / 同軸ケーブルについて	6	トーン周波数の設定 (TONE SQL FREQ)	28
アンテナの接続	6	DCS コードの設定 (DCS CODE)	28
電源の接続	7	連続送信可能時間の設定 (TOT)	29
バックアップ電源の接続	7	スケルチ開閉レベル差の設定 (SQL	
パネル面の説明	8	HYSTERESIS)	29
背面の説明	9	DOWN LINK 送信停止タイミングの設定	
ディスプレイの説明	10	(SQL TAIL LENGTH)	29
初期画面 (レピータモード)	10	ID (コールサイン) のアナウンス	
セットアップ画面	10	モード設定 (ANNOUNCE MODE)	30
セットアップメニュー画面	11	ID (コールサイン) のアナウンス	
基本操作	12	レベル設定 (ANNOUNCE LEVEL)	30
本機の電源をオン / オフする	12	ID (コールサイン) のアナウンス	
受信 (アップリンク) 音量を調節する	12	送出間隔の設定 (INTERVAL)	31
ID (コールサイン) を登録する	12	CW ID の送出スピードの設定	
周波数を設定する	13	(CW ID SPEED)	31
スケルチを設定する	13	トーン / DCS の切り替え (SQL)	32
送信出力の設定	13	リモート機能のオン / オフ	
応用操作	14	(MODE/REMOTE → REMOTE)	32
ディスプレイの表示をオン / オフする	14	リモートコントロールの設定	
ベースステーション	14	(MODE/REMOTE → COMMAND)	32
リモートコントロール	15	自動で画面表示をオフにする	
DP-ID の登録	15	(DISPLAY TIMER)	32
(デジタルモードでリモート		パスワードを設定する (PASSWORD)	33
コントロールする場合のみ)	15	ID (コールサイン) の入力 (ID SET)	33
DP-ID リストから登録済の		変調レベルの設定 (DEVIATION)	33
トランシーバーを削除する	16	WIRES-X モードへの切り替え	34
リモートコントロールのモード設定	17	リセット操作	34
デジタルモード (C4FM) で		ボイスガイドユニット FVS-2 の装着	35
コントロールする	18	アフターサービスについて	36
アナログモード (DTMF) で		定格	37
コントロールする	18	その他	38
コントロールコマンドを変える	19	「レピータ装置変更用工事設計書」に	
ボイスメッセージ	20	ついて	38
メッセージを録音する	20	「レピータ局、アシスト局の公衆網との	
録音したメッセージを再生して確認する	20	接続に関する届書」について	38
録音されているメッセージを削除する	20	送信機系統図	39
ボイスメッセージを自動で送信する			
間隔と回数の設定	21		

付属品

AC 電源ケーブル	1	ケースレグ (脚)	4
DC 電源ケーブル (ヒューズ付)	1	取扱説明書 (本書)	
予備ヒューズ (5A/15A)	各 1	保証書	
PC コネクションケーブル (SCU-56)	1		

タッチパネルについて

●タッチパネル使用上の注意

タッチパネルを指で軽く触れると動作するように設計されています。

- ◎ 液晶保護フィルムやシートを貼ると、タッチパネルが動作しないことがあります。
- ◎ 爪やペンなど先のとがったもので操作したり、必要以上の力で強く押ししたりしないでください。タッチパネルの傷や故障の原因になります。
- ◎ スマートフォンのようなフリック操作、ピンチイン、ピンチアウト操作はできません。

TFT ディスプレイについて

DR-2XJ のタッチパネルは、TFT 液晶ディスプレイを使用しています。

- ◎ TFT 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術で作られていますが、液晶パネル内に画素欠け（黒点）や常時点灯する点（輝点）が存在することがあります。これは、TFT 液晶ディスプレイの製造技術の限界によるものですので、製品の欠陥や故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- ◎ 見る角度によって、色ムラや明るさのムラが発生することがありますが、TFT 液晶ディスプレイの構造によるものですので、製品の欠陥や故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- ◎ TFT 液晶ディスプレイに付いたホコリや汚れを清掃するときは、本製品の電源を切ってから乾いたやわらかい布などで拭いてください。ガラスクリーナー、家庭用洗剤、有機溶剤、アルコール、研磨剤などを使用すると、TFT 液晶ディスプレイに傷が付く恐れがあります。汚れがひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

登録商標および著作権について

本書に記載されている会社名、製品名などは、各社の商標および登録商標です。

八重洲無線株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複写およびあらゆる方法による複製を禁止します。

本書の読みかた

本書では、フロントパネルでの操作を次のように表記します。

- [○○] を押す キーやスイッチを短く押すことを示します。
- [○○] を 1 秒以上押す キーやスイッチを 1 秒以上押すことを示します。
- [○○] にタッチする タッチパネル画面に短く触れることを示します。
- [○○] に 1 秒以上タッチする タッチパネル画面に 1 秒以上触れることを示します。
- [○○] を選ぶ 項目をハイライト表示させることを示します。

また本書では、次のような表記も使用します。

注意 運用するときに、注意していただきたい内容を説明します。

参考 操作上のアドバイスや知っておくと便利なことを説明しています。

製品改良により、本書の図面などが一部製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

オプション

DTMF マイクロホン	MH-48A6JA
マイクロホン	MH-42C6J
ボイスガイドユニット	FVS-2

安全上のご注意

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味

- | | |
|---|---|
|  | 危険 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者および周囲の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。 |
|  | 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者および周囲の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  | 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者および周囲の人が障害を負う可能性が注意想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

図記号の種類と意味

- | | |
|---|--|
|  | 本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。図の中や近くに具体的な禁止内容（  の場合は分解禁止）が描かれています。 |
|  | 本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。図の中に具体的な指示内容（  の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。 |

危険

- | | | | |
|---|--|---|---|
|  | 病院内や医療用電子機器の近くでは使用しないでください。
医療用電子機器に影響を与える場合があります。 |  | 引火性ガスの発生する場所での運用は行わないでください。
火災、爆発の原因になります。 |
|  | 雷が鳴り出したら、早めに本機の電源スイッチを切り、電源コードとアンテナケーブルを本機から外してください。
雷によっては、火災や感電・故障の原因になります。 |  | 液晶ディスプレイから漏れている液などに素手で触れないでください。
皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすおそれがあります。この場合、直ちに医師の診断を受けてください。 |

警告

- | | | | |
|---|---|---|--|
|  | 本機を改造しないでください。また、本書に記載のない方法で分解しないでください。
火災や感電・故障の原因になります。 |  | アースを確実に取り付けてください。
感電やテレビ・ラジオへの電波障害になる原因になります。 |
|  | 送信中にアンテナにふれないでください。
火傷やケガ等の原因になります。 |  | 電源プラグのピン、およびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。 |
|  | ガス管や配電用のコンジットパイプなどにアースを取らないでください。
爆発・火災・感電・故障の原因になります。また、アースは市販のアース棒や銅板を使用してください。 |  | 長時間の連続送信はしないでください。
長時間にわたり送信すると故障の原因になります。また、本機の上面や側面を触れると、やけどの原因になります。 |
|  | 煙が出ていたり、変な臭いがするときは電源をオフにする、または電源ケーブルをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店または当社カスタマーサポートにご連絡ください。 |  | 水などで濡れやすい場所（加湿器のそばなど）に設置しないでください。
火災・感電・故障の原因になります。 |
|  | 濡れた手で電源ケーブルのコネクターを抜き差ししたり、機器に触れたりしないでください。
感電やケガ等の原因になります。 |  | 付属品やオプション以外の電源ケーブルを使用しないでください。
火災・感電・故障の原因になります。 |
|  | 指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。 |  | DC 電源ケーブルを接続するときは、+（プラス）と-（マイナス）の極性を間違えないように十分注意してください。
火災・感電・故障の原因になります。 |
|  | 付属品以外の電源ケーブルで市販の直流電源に接続しないでください。
火災や感電・故障の原因になります。 |  | 電源コードの上に重い物を載せたり、無理に曲げたり引っ張ったりしないでください。
電源コードが傷つき、火災や故障の原因になります。 |

安全上のご注意

-  電源ケーブルや接続ケーブルを抜き差しするときは、ケーブルを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因になりますので、プラグまたはコネクタを持って抜いてください。
-  DC 電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。ショートして発火や火災などの原因になります。
-  指定以外のヒューズを使用しないでください。火災や故障の原因になります。
-  オプションを組み込む前やヒューズを交換する前に、電源ケーブルや接続ケーブルを外してください。火災・感電・故障の原因になります。
-  オプションを組み込むときやヒューズを交換するときは、説明と異なる取り付けをしないでください。火災・感電・故障の原因になります。

-  オプションの取り付けに使用するビスは、必ず指定サイズのものをご使用ください。サイズの異なったビスを使用すると、火災や感電・故障の原因になります。
-  本機を押入や本棚などの、風通しが悪く狭い場所に押し込まないでください。内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
-  本機をジュウタンや布団の上に置かないでください。内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
-  万一、内部に異物が入った場合には、すぐに本機の電源スイッチを切り、本機を電源から外してください。そのまま使用すると、火災や故障の原因になります。

⚠ 注意

-  本機をぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。
-  本機の上に重い物を置かないでください。落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。
-  本機の上に花瓶・化粧品・コップなどの、水の入った容器を置かないでください。こぼれたり中に入った場合、火災や故障の原因になります。
-  本機の上にクリップなどの小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災や故障の原因になります。
-  無線中継装置の近くでは使用しないでください。業務無線通信に、妨害を与える場合があります。
-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。ケースの汚れは、やわらかい乾いた布で拭き取ってください。
-  本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。火災や故障の原因になります。
-  本機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。ケガや故障の原因になります。
-  長期間ご使用にならない場合には、安全のため、本機の電源スイッチをオフにするともに、電源コードを電源から外してください。
-  むやみに内部に触れないでください。オプションの取り付け時以外は、お手を触れないでください。

-  オプションの取り付けなどで、本機の内部に触れるときには、電源コードを本機から外してください。故障や感電の原因になります。
-  オプションの取り付け時には、シャーシの角などでケガをしないよう十分ご注意ください。
-  本機を移動させるときには、電源コードを本機から外すとともに、アンテナケーブルや周辺機器などを接続している全てのケーブルを外した上で行ってください。
-  磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。
-  本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。変形・変色などの原因になります。
-  本機の上面や側面に触れないでください。長時間使用すると、上面と側面の温度が高くなります。触れるとやけどの原因になることがあります。
-  テレビやラジオの近くに設置しないでください。妨害電波を与えるまたは受けたりすることがありますので充分離してください。
-  外部アンテナはテレビアンテナや電灯線からなるべく離してください。妨害電波を与える場合があります。
-  当社指定のオプション以外の製品は使用しないでください。故障の原因になることがあります。

安全上のご注意

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けている、との連絡を受けた場合はただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

参考 無線局運用規則 第8章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときには、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。(以下省略)

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じて、お買いあげの販売店または、当社カスタマーサポート(電話：0570-088013)に相談するなどして、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。一般社団法人 日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟(JARL)

〒170-8073

東京都豊島区南大塚 3-43-1 大塚 HT ビル 6 階

E-mail : oper@jarl.org

設置上のご注意

本機を設置するときは、次のことにご注意ください。

- ◎ 直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
- ◎ 湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
- ◎ 風通しが悪いところで長時間送信すると本機本体の温度が上昇しますので、放熱の妨げにならないよう設置場所を選んでください。
- ◎ ぐらついた台や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
- ◎ テレビやラジオの近くに設置すると、ノイズを受けたり TVI や BCI の原因となることがありますので、できるだけ本機やアンテナを離して設置してください。
- ◎ 電源コードの上に重いものを載せたり、電源コードを無理に曲げたり引っ張ったりすると断線する恐れがあります。
- ◎ 外部アンテナはテレビアンテナや電灯線からなるべく離してください。

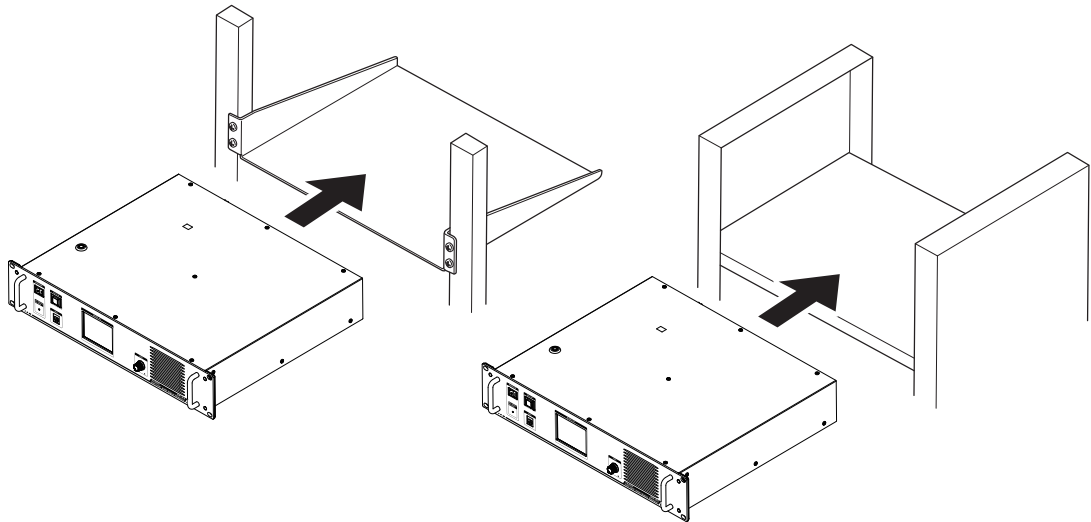
DR-2XJ の設置例

本機の底面を下にして、平らなラックなどに設置してください。

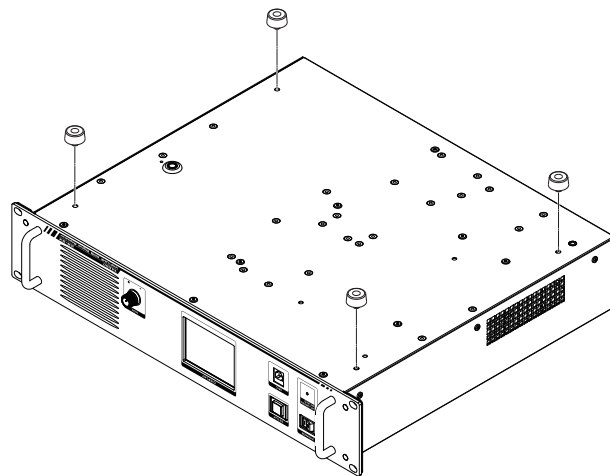
注意

本機の重量は約 10kg です。設置の際は本機の重量に耐えられるものを使用してください

本機のフロントパネル部を、ボルトなどでラック（19 インチ）に固定することを推奨します。



本機を机の上などに据え置いて使用する場合は、下図を参考に付属の脚（4 本）を本機の底面に取り付けてください。



設置と接続方法

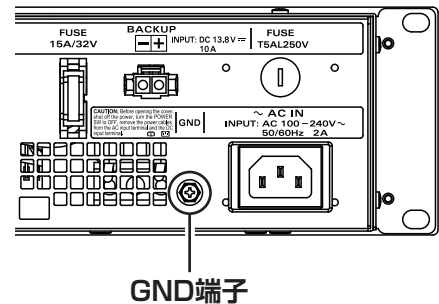
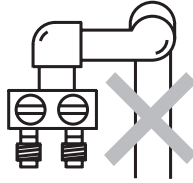
アースについて

感電事故を未然に防ぐため、またスプリアス輻射を少なくして質の高い電波を発射するためにも、良好なアースをとることは大切なことです。

市販のアース棒や銅板などを地中に埋め、十分に太い銅線を使用して、できるだけ最短距離で本体背面の GND 端子に接続してください。

注意

ガス配管や配電用のコンジットパイプなどは、爆発などの事故防止のため、絶対にご使用にならないでください



アンテナ / 同軸ケーブルについて

本機は、50 Ω のアンテナに整合するように設計してありますので、本機とアンテナを結ぶ同軸ケーブルは、50 Ω の良質な同軸ケーブルをご利用ください。

本機のパフォーマンスに大きく影響しますので、アンテナ・同軸ケーブル・デュプレクサと本機との間の整合を確実にとり、SWR が 1.5 以下になるように調節してください。

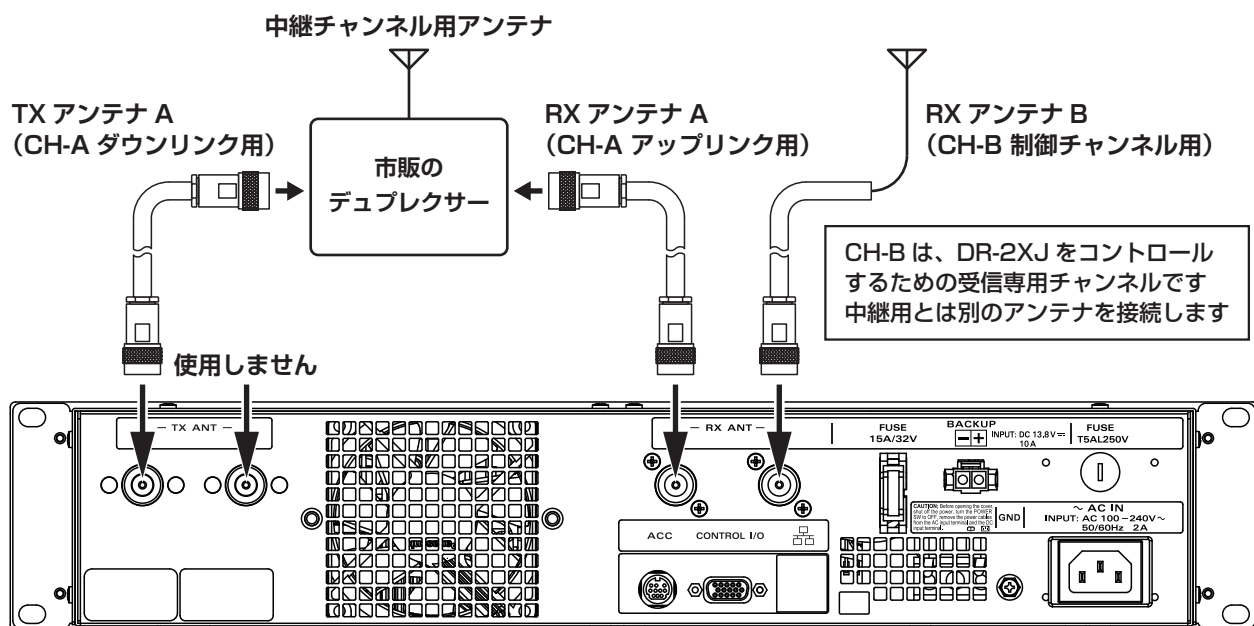
注意

- ◎ アンテナは非常に高い電圧になることがありますので、人体などに容易に触れることがないように設置してください
- ◎ アンテナを通常人が出入りできるような場所屋上やベランダなどに設置する場合は、その高さが人の歩行、その他起居する平面から 2.5m 以上となるように設置してください（電波法施行規則 第 25 条参照）
- ◎ アンテナが倒れたり、強風で飛ばされないように、支線の張り方や固定補助など配慮して設置してください

アンテナの接続

下図を参考に、デュプレクサーとアンテナを接続してください。

トランシーバーから本機の制御を行う場合は、中継用とは別に制御チャンネル（CH-B）用のアンテナを“RX ANT B”に接続してください。



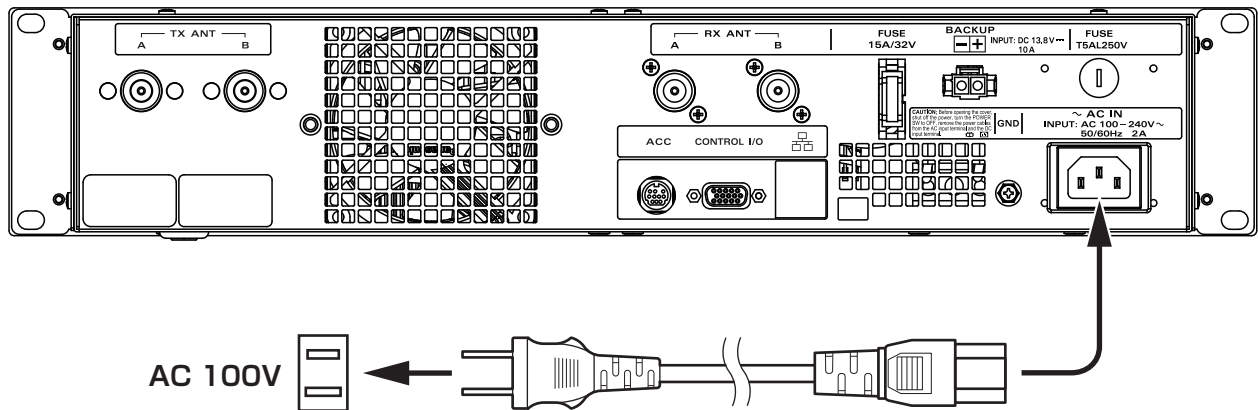
注意

- ◎ デュプレクサーは、送信・受信の相互干渉がないもの（減衰量 90dB 以上）を使用してください
- ◎ 落雷に備え、市販の同軸避雷器を使用するようにしてください

設置と接続方法

電源の接続

付属の AC 電源ケーブルを使用して、本機を AC100V に接続してください。



バックアップ電源の接続

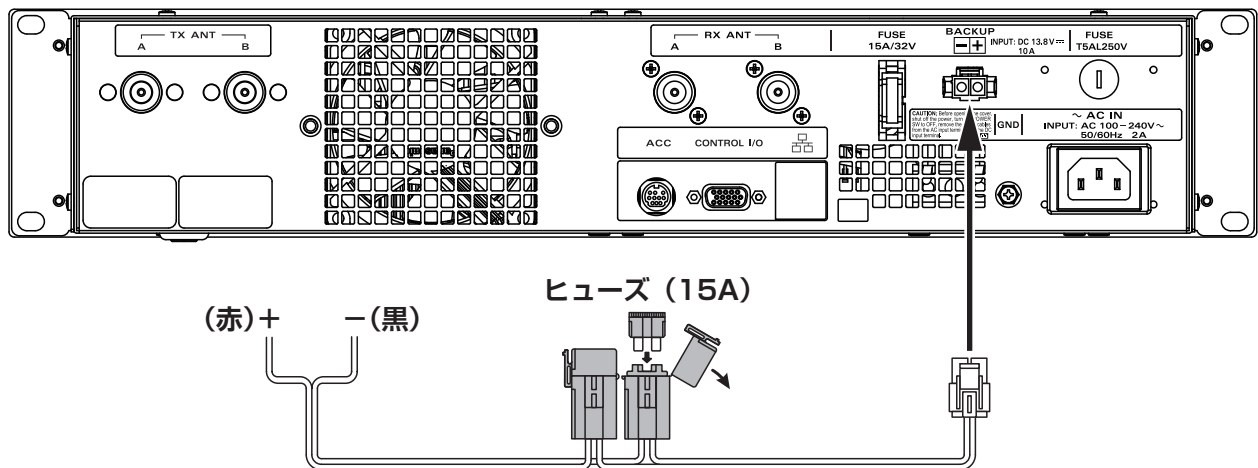
停電などで AC 電源が停止した場合でも、本機を動作させることができます。

背面の BACKUP 端子にバックアップ電源（充電式バッテリーなど）を接続することにより、AC 電源が停止すると自動的にバックアップ電源に切り替わります。

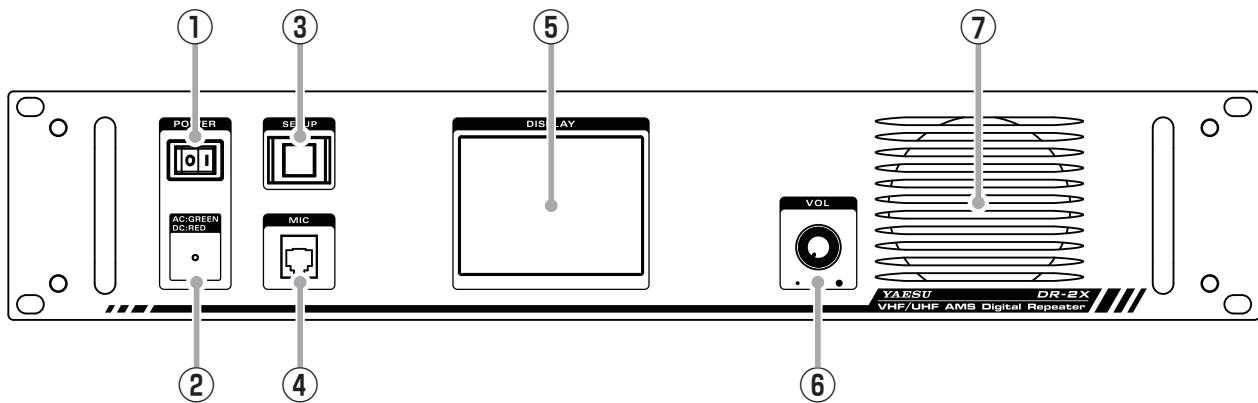
バックアップ電源で動作している間、本機は送信中に 13.8V で約 5A を必要とします。

注意

- ◎ バックアップ電源は直流 13.8V、電流容量 10A 以上の電源を使用してください
- ◎ 接続する前に必ずバックアップ電源の電源を切ってください
- ◎ バックアップ電源への接続は、必ず付属の DC 電源ケーブルを使用し、赤色線を電源のプラス（+）端子に、黒色線を電源のマイナス（-）端子に接続してください
- ◎ AC 電源が回復すると、DC 起動電流（突入電流）によって保護ヒューズが切断される場合があります



パネル面の説明



① 電源 (POWER) スイッチ

“I” 側にすると、本機の電源がオンになります。“O” 側にすると電源がオフになります。

② 電源インジケータ

本機に供給されている電源の種類を表示します。

緑色：AC IN ジャックに接続された AC 100V の電源

赤色：BACKUP 端子に接続されたバックアップ電源

③ SETUP ボタン

ディスプレイの表示をオン・オフすることができます。

長押しするとディスプレイの表示が消え、タッチ操作も無効になります。

再度長押しするとディスプレイの表示が点灯し、タッチ操作も有効になります。

④ MIC 端子

オプションのマイクロホンを接続すると、直接本機から送信することができます。

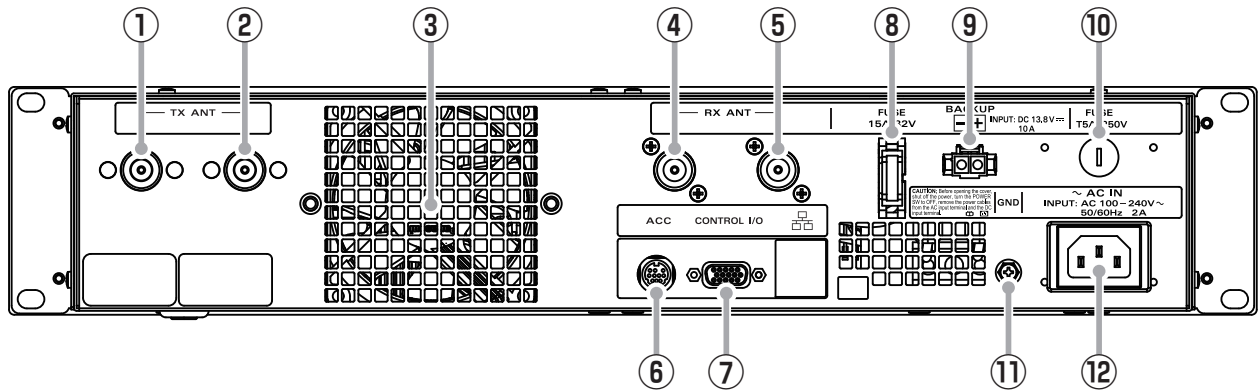
⑤ ディスプレイ

周波数表示や設定値を表示するタッチパネルディスプレイです。

⑥ VOL ツマミ

受信（アップリンク）音量を調節するつまみです。

⑦ スピーカー



① CH-A 送信用アンテナコネクター

CH-A に設定した TX (ダウンリンク) 周波数で送信します。
市販のデュプレクサーまたは、送信周波数に適合したアンテナを接続します。

注意 デュプレクサーは、送信・受信の相互干渉がないもの (減衰量 90dB 以上) を使用してください

② CH-B 送信用アンテナコネクター

通常は使用しません。

③ 冷却ファン

本機内部を冷却するためのファンです。

注意 冷却のための通風口ですので、塞がないでください

④ CH-A 受信用アンテナコネクター

CH-A に設定した RX (アップリンク) 周波数を受信します。
市販のデュプレクサーまたは、受信周波数に適合したアンテナを接続します。

注意 デュプレクサーは、送信・受信の相互干渉がないもの (減衰量 90dB 以上) を使用してください

⑤ CH-B 受信用アンテナコネクター

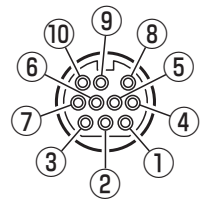
CH-B に設定した RX 周波数を受信します。
トランシーバーから本機の制御を行う場合は、CH-B の RX 周波数に適したアンテナを接続してください。

⑥ ACC ジャック

付属の PC コネクションケーブル SCU-56 で WIRES-X 接続用キット “HRI-200” と接続する端子です。

◎ 必ず本機の電源をオフにしてから接続してください

注意 ◎ SCU-56 を使用する場合は、パソコンに専用のドライバーをインストールする必要があります。ドライバーとインストールマニュアルは、当社ウェブサイトからダウンロードできます



1	PKD (パケットデータインプット)
2	GND
3	PSK (PTT)
4	RX 9600 (9600bps パケットデータアウトプット)
5	RX 1200 (1200bps パケットデータアウトプット)
6	PK SQL (スケルチ制御)
7	TXD (シリアルデータアウトプット [本機 → PC])
8	RXD (シリアルデータインプット [本機 ← PC])
9	CTS (データ通信制御)
10	RTS (データ通信制御)

⑦ CONTROL I/O コネクター

外部機器との接続に使用します 26 ページの「リモート操作」参照。

⑧ ヒューズホルダー (バックアップ電源用)

バックアップ電源端子のヒューズ (15A) です。

⑨ バックアップ電源端子 (BACKUP)

バックアップ用の DC 13.8V 電源 (充電式バッテリーなど) を接続します。

停電などで AC 電源が停止した場合でも、自動的にバックアップ電源に切り替わり本機を動作させることができます 7 ページの「バックアップ電源の接続」参照。

⑩ ヒューズホルダー (AC 電源用)

AC 電源端子のヒューズ (5A) です。

⑪ GND 端子

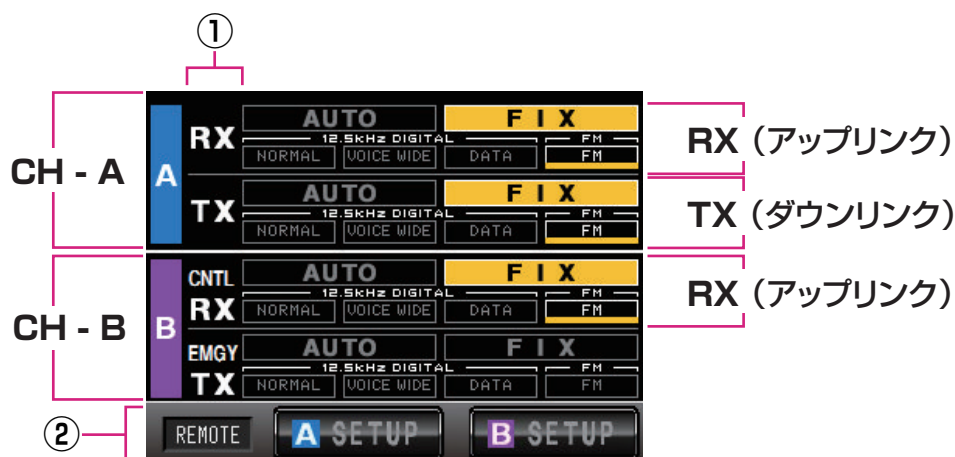
できるだけ太い線材で最短距離で接地してください。

⑫ AC 電源端子

付属の AC 電源ケーブルで AC100V に接続してください。

ディスプレイの説明

初期画面（レピータモード）



① TX/RX インジケータ

RX：受信時は緑色に変わります。
TX：送信時は赤色に変わります。

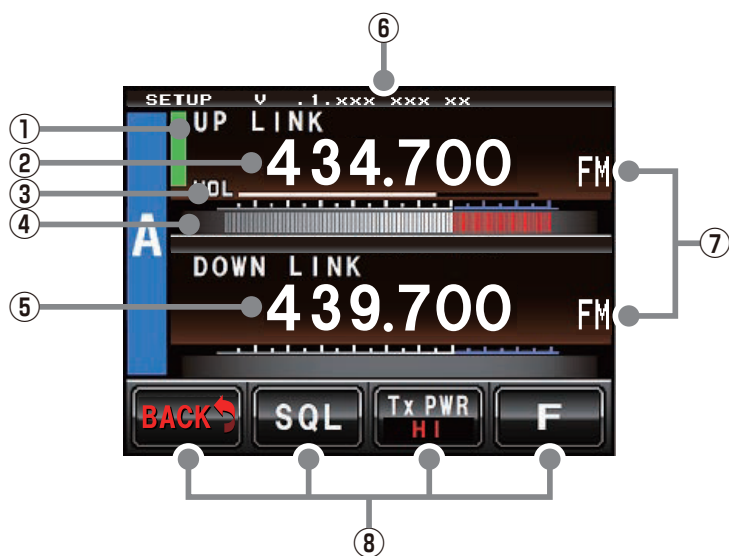
② REMOTE

リモート機能がオンのときは“REMOTE”の文字が赤色で表示されます。
他の無線機から送信禁止操作を行った際は“REMOTE”の文字が赤色で点滅します。

A SETUP / B SETUP

タッチすると、周波数設定、スケルチレベル設定、送信出力設定、セットアップメニュー画面表示が行えるセットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面



① 受信インジケータ

信号を受信すると緑色のバーが表示されます

② UP LINK（受信）周波数

UP LINK（受信）周波数を表示します。
周波数を変更する時は、この部分をタッチします 13 ページの「周波数を設定する」参照。

③ 音量 / スケルチレベル表示

④ S メーター

信号強度をバーグラフで表示します。

ディスプレイの説明

⑤ DOWN LINK（送信）周波数

DOWN LINK（送信）周波数を表示します。

周波数を変更する時は、この部分をタッチします 13 ページの「周波数を設定する」参照。

⑥ ファームウェアバージョン表示

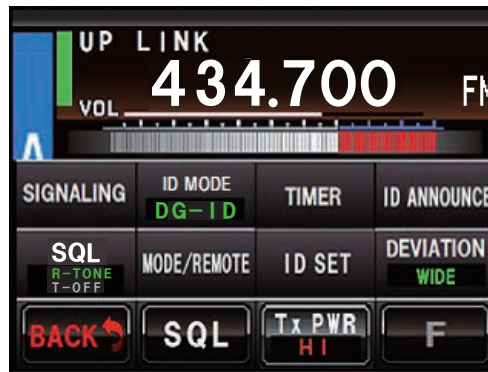
⑦ 通信モード表示部

電波型式 “FM” を表示します

⑧ タッチキー表示部

BACK	一つ前の画面に戻ります
SQL	スケルチレベルを設定します 13 ページの「スケルチを設定する」参照
Tx PWR	送信出力を設定します 13 ページの「送信出力の設定」参照
F	各種機能の設定を行うセットアップメニュー画面が表示されます

セットアップメニュー画面



設定したい項目にタッチすると、設定画面が表示されます 28 ページの「各種設定」参照。

SIGNALING	TONE SQL FREQ		トーン周波数の設定*
	DCS CODE		DCS コードの設定*
SQL	RX SQL		UP LINK のトーンシグナルタイプ （“TONE” または “DCS”）の設定*
	TX SQL		DOWN LINK のトーンシグナルタイプ （“TONE” または “DCS”）の設定*
ID MODE	—		デジタルモードでリモートコントロールを行う際の DP-ID の設定
MODE/REMOTE	REMOTE		リモート操作のオン / オフ設定
	COMMAND		各種機能のオン / オフコマンドの設定
	DISPLAY TIMER		自動で画面表示をオフにする時間の設定
TIMER	TOT	TX TOT	連続送信可能時間の設定
	SQL	SQL HYSTERESIS	スケルチ開閉レベル差の設定
		SQL TAIL LENGTH	DOWN LINK 送信停止タイミングの設定
	MESSAGE	PLAY INTERVAL	メッセージを送出する間隔の設定
		PLAY TIMES	メッセージを送出する回数の設定
ID SET	—		ID（コールサイン）の登録
ID ANNOUNCE	ANNOUNCE	ANNOUNCE	ID（コールサイン）のアナウンスモード設定
		INTERVAL	ID（コールサイン）のアナウンス送出間隔の設定
DEVIATION	—		変調レベルの設定

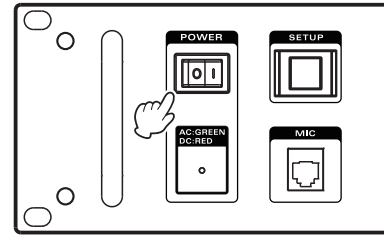
※：レピータ局では UP LINK のトーン信号（周波数 88.5Hz）のみ認められています。

88.5Hz 以外のトーン周波数や DCS には変更しないでください。

基本操作

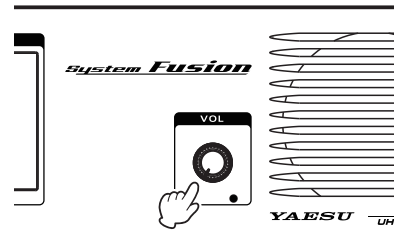
本機の電源をオン / オフする

電源 (POWER) スイッチを“I” 側にすると、本機の電源がオンになります。
“O” 側にすると電源がオフになります。



受信 (アップリンク) 音量を調節する

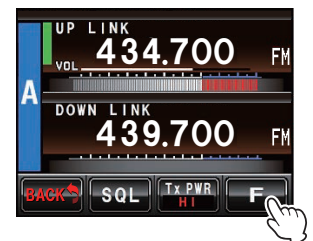
VOL ツマミをまわして音量を調節します。



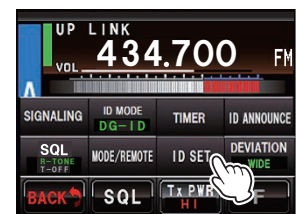
ID (コールサイン) を登録する

お買い上げのあと初めて電源を入れたとき、または本機をリセットしたあとは、必ず自局の ID (コールサイン) を入力してください。

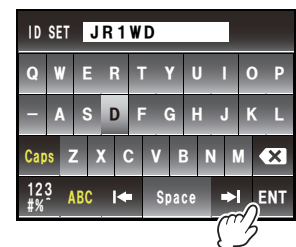
1. [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



2. [ID SET] にタッチします。
ID 入力画面が表示されます。

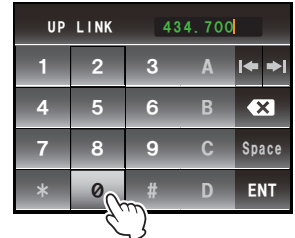
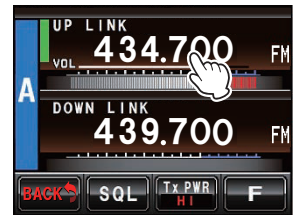
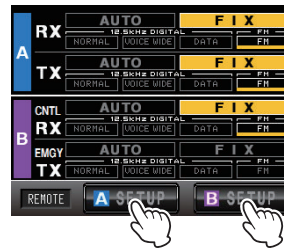


3. 画面上の英数字をタッチして ID (最大 10 桁) を入力します。
[123#%^] にタッチすると、数字・記号入力画面が表示されます。
[ABC] にタッチすると、アルファベット入力画面が表示されます。
[X] にタッチすると、カーソル左側の文字を消去します。
[←]/[→] にタッチすると、カーソルをそれぞれの方向に移動させることができます。
4. [ENT] にタッチすると、入力した ID が設定されます。
セットアップメニュー画面が表示されます。
5. [BACK] に 2 回タッチすると初期画面に戻ります。



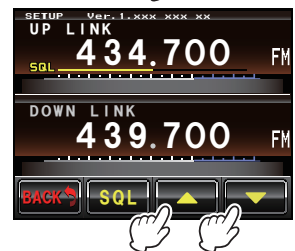
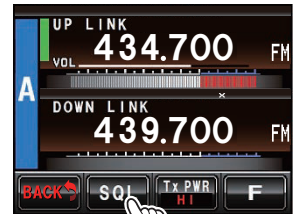
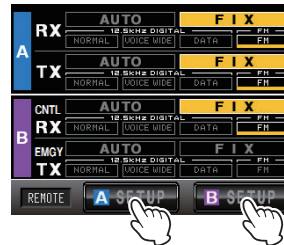
周波数を設定する

1. A または B の [SETUP] にタッチします。
セットアップ画面が表示されます。
2. “UP LINK” (受信) または “DOWN LINK” (送信) の周波数表示部にタッチします。
周波数入力画面が表示されます。
3. 画面上の数字をタッチして、周波数を入力します。
[X] にタッチすると、カーソル左側の数字を消去します。
4. 10kHz の桁まで入力するか [ENT] にタッチすると、周波数が設定されセットアップ画面に戻ります。
入力途中で [ENT] にタッチすると、カーソル以降の桁が “0” に設定されます。
5. [BACK] にタッチすると初期画面に戻ります。



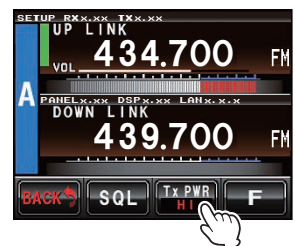
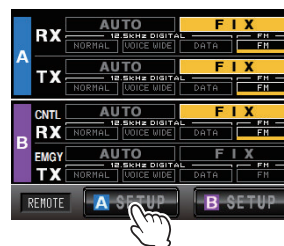
スケルチを設定する

1. A または B の [SETUP] にタッチします。
セットアップ画面が表示されます。
2. [SQL] にタッチします。
3. [▲] または [▼] にタッチして、スケルチレベルを設定します。
レベルはバーメーターで確認できます。
4. [BACK] にタッチすると、スケルチレベルが設定され初期画面に戻ります。



送信出力の設定

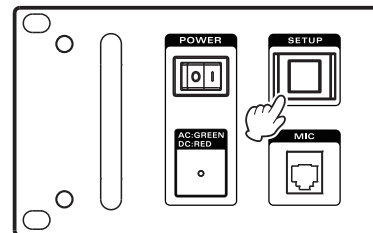
1. A の [SETUP] にタッチします。
セットアップ画面が表示されます。
2. [Tx PWR] にタッチして、送信出力を選択します。
タッチするたびに、送信出力が切り替わります。
LO (1W) ➡ MD (5W) ➡ HI (10W) ➡ LO (1W)...
3. [BACK] にタッチすると、送信出力が設定され初期画面に戻ります。



応用操作

ディスプレイの表示をオン / オフする

1. SETUP ボタンを 1 秒以上押すとディスプレイの表示が消えます。
タッチ操作も無効になります。
2. 再度 SETUP ボタンを 3 秒以上押すとディスプレイの表示が点灯します。
タッチ操作も有効になります。

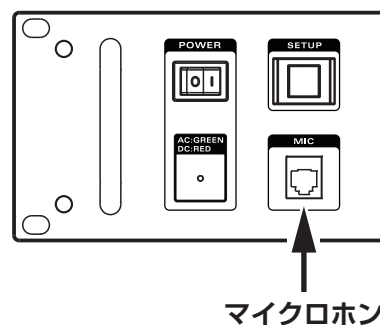


参考 一定時間何の操作も行わないでいると、自動的にディスプレイの表示が消えるようにすることができます。
32 ページの「自動で画面表示をオフにする (DISPLAY TIMER)」参照

ベースステーション

パネル面の MIC 端子に、オプションのマイクロホンを接続することにより、直接本機から送信することができます。

参考 CH-A でのみ動作します。



リモートコントロール

当社のモービルトランシーバーから、DR-2XJの各動作をオン / オフすることができます。

- ・リモートコントロールは「デジタル (C4FM) モード」または「アナログ FM モード (DTMF)」のどちらかのモードで行います (選択方法は 17 ページの「リモートコントロールのモード設定」参照)

注意

- ・デジタル (C4FM) モードでのリモートコントロールは、下記のトランシーバーで行うことができます
FTM-510D、FTM-500D、FTM-310D、FTM-300D、FTM-200D、FTM-100D、FTM-400XD/D
(2025 年 12 月現在)

- ・デジタル (C4FM) モードでリモートコントロールする場合は、トランシーバーの DP-ID を事前に DR-2XJ に登録する必要があります (登録方法は下記参照)。

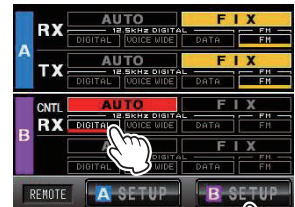
参考

- ・リモートコマンドは、他のトランシーバーから CH-B の周波数で送信します。

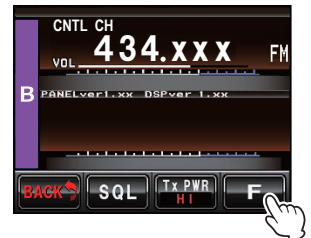
DP-ID の登録 (デジタルモードでリモートコントロールする場合のみ)

デジタル (C4FM) モードのトランシーバーから DR-2XJ の各動作をオン / オフする“リモートコントロール”を行う際は、セキュリティ強化のためにあらかじめトランシーバーの DP-ID を本機に登録する必要があります。

1. DP-ID を登録するトランシーバーを“C4FM”モードにして、周波数を DR-2XJ の CH-B と同じ周波数に合わせます。
2. DR-2XJ の CH-B を“DIGITAL”にします。
3. [B SETUP] にタッチします。



4. [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



5. [ID MODE] にタッチして“DP-ID”の表示にします。



6. 画面が変わるまで [ID MODE] にタッチし続けます。
[DP-ID LIST] 画面が表示されます。



7. [REG] にタッチします。
[DP-ID Registration?] が表示されます。



リモートコントロール

8. DR-2XJ の近くでトランシーバーを送信すると、トランシーバーの Radio ID が表示されます。



9. [OK?] にタッチするとトランシーバーの DP-ID が登録されます。
同じ操作で最大 100 局のトランシーバーを登録できます。

DP-ID リストから登録済のトランシーバーを削除する

1. CH-A または CH-B の [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。
2. [ID MODE] にタッチして “DP-ID” の表示にします。
3. 画面が変わるまで [ID MODE] にタッチし続けます。
[DP-ID LIST] 画面が表示されます。
4. 削除したいトランシーバーにタッチします。
5. 確認画面が表示されますので [OK] にタッチすると削除されます。

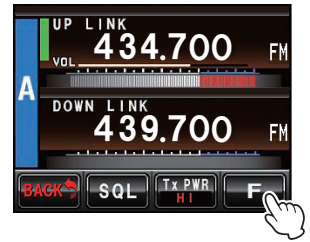


リモートコントロール

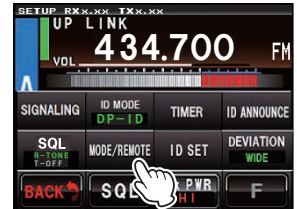
リモートコントロールのモード設定

始めに、リモートコマンドを“デジタルモード (C4FM)”で送るか“アナログモード (DTMF)”で送るかを設定します。

1. CH-A または CH-B の [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



2. [MODE/REMOTE] にタッチします。



3. [COMMAND] にタッチします。
[COMMAND LIST] 画面が表示されます。



4. [CONTROL MODE] にタッチして“DIGITAL”または“DTMF”を選択します。

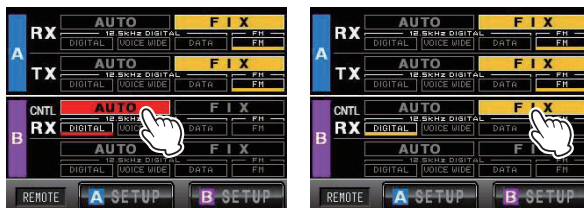


デジタルモード (C4FM) で
コントロールする場合

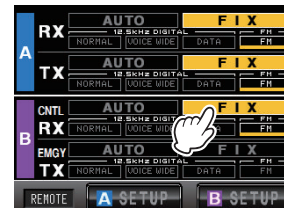


アナログモード (DTMF) で
コントロールする場合

5. [BACK] に4回タッチすると初期画面に戻ります。
6. CH-B のモードを設定します。



デジタルモード (C4FM) でコントロールする場合は
“AUTO”または“FIX DIGITAL”にします



アナログモード (DTMF) で
コントロールする場合は“FIX FM”にします

リモートコントロール

デジタルモード（C4FM）でコントロールする

1. トランシーバーのモードを“C4FM”に設定します。
設定方法は、トランシーバーの取扱説明書を参照してください。
2. トランシーバーの周波数を DR-2XJ の CH-B と同じ周波数にします。
3. マイクホン of “*” を長押しします。
 - ・トランシーバーがリモートコントロールモードになります。
 - ・“REMOTE REC/PLAY” または “REC/PLY” が表示されます（トランシーバーにより異なります）。
4. 4桁のコマンド（下表参照）を入力して、その後 “#” を押すとコマンドが送出されます。
5. マイクホン of “*” を押すと、トランシーバーはリモートコントロールモードから通常のモードに変わります。

アナログモード（DTMF）でコントロールする

1. トランシーバーの設定を DR-2XJ の CH-B の設定に合わせます。
設定方法は、トランシーバーの取扱説明書を参照してください。

 周波数 → DR-2XJ の CH-B と同じ周波数
 モード → アナログ FM
 DTMF の送出方法 → MANUAL
 スケルチタイプ → DR-2XJ と同じ “TONE（トーン周波数）” または “DCS（DCS コード）”（DR-2XJ に “TONE” や “DCS” が設定されている場合）
2. トランシーバーを送信状態にして、マイクのキーで “*” に続けて4桁の数字（下表参照）を送出します。

- ◎ コマンドを受け付けて機能の動作が完了すると、完了を知らせる CW ID をダウンリンク周波数で送出します。
- ◎ ボイスメッセージの録音・再生は、オプションの “FVS-2” が必要です。またアナログモード FM 時のみ動作します。

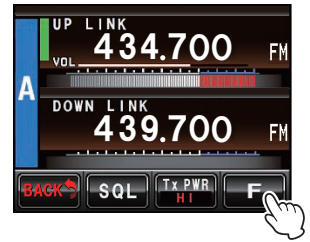
コントロール項目		コントロールコマンド		アナログFMモードで 動作完了時に送出される CW ID
		デジタルモード (C4FM)	アナログFMモード (DTMF)	
中継機能 “ON”	中継機能が動作します	1111	*1111	O (――)
中継機能 “OFF”	中継機能が停止します	2222	*2222	S (・・・)
FIX DIGITAL	機能は割り当てられていません			
AUTO				
送信出力 (HIGH)	送信出力を “10W” にします	0050	*0050	H (・・・)
送信出力 (MID)	送信出力を “5W” にします	0020	*0020	M (――)
送信出力 (LOW)	送信出力を “1W” にします	0005	*0005	L (・・・)
メッセージの録音	DR-2XJにメッセージを録音します	動作しません	*5555	R (――)
メッセージの再生	DR-2XJに録音されたメッセージを再生します		*6666	R (――)
メッセージの消去	DR-2XJに録音されたメッセージを消去します		*7777	R (――)
無効なコマンドの場合 (FVS-2未装着時に、メッセージ関連のコマンドを送った場合など)				NG (―― ―――)

リモートコントロール

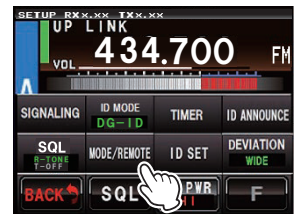
コントロールコマンドを変える

DR-2XJ の各動作をコントロールするコマンドを変更することができます。

1. [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



2. [MODE/REMOTE] にタッチします。



3. [COMMAND] にタッチします。
[COMMAND LIST] 画面が表示されます。



4. [CONTROL MODE] にタッチして “DIGITAL” または “DTMF” を選択します。
[COMMAND LIST] 画面が表示されます。

5. コマンドを変更したい項目にタッチします。
コマンド入力画面が表示されます。



6. 4桁のコマンドを入力します。
[COMMAND LIST] 画面に戻ります。

注意 他の機能と同じコマンドコードを設定することはできません。

7. [BACK] に4回タッチすると初期画面に戻ります。

リモートコントロール

ボイスメッセージ

モービルトランシーバーから DR-2XJ に音声メッセージを録音して、設定した間隔と回数でメッセージをダウンリンク周波数で送信することができます。

参考 ボイスメッセージの録音・再生は、オプションの“FVS-2”が必要です。またアナログモード時のみ動作します。

1. トランシーバーの設定を DR-2XJ の CH-B の設定に合わせます。
設定方法は、トランシーバーの取扱説明書を参照してください。

周波数	→ DR-2XJ の CH-B と同じ周波数
モード	→ アナログ FM
DTMF の送出方法	→ MANUAL
スケルチタイプ	→ DR-2XJ と同じ “TONE (トーン周波数)” または “DCS (DCS コード)” (DR-2XJ に “TONE” や “DCS” が設定されている場合)

メッセージを録音する

1. トランシーバーを送信状態にして、マイクのキーで“メッセージの録音コマンド（工場出荷時は * 5555）”を押します。
2. トランシーバーの送信を止めます。
3. DR-2XJ が録音可能状態になると、ダウンリンク周波数で“R (・ー・)”の CW ID を送信します。

参考 DVS-2 の録音容量が少なく録音できない場合は“NG (ー・ーー・)”の CW ID が送信されます。この場合は DVS-2 に録音されているメッセージを消去してください（操作方法は下記を山荘してください）

4. トランシーバーを送信すると録音を開始しますので、マイクに向かってメッセージを話します。
録音時間は最大 60 秒です。
5. トランシーバーの送信を止めると録音を停止し、ダウンリンク周波数で“R (・ー・)”の CW ID を送信します。

録音したメッセージを再生して確認する

1. トランシーバーを送信状態にして、マイクのキーで“メッセージの再生コマンド（工場出荷時は * 6666）”を押します。
2. トランシーバーの送信を止めます。
3. メッセージの再生が終わると、ダウンリンク周波数で“R (・ー・)”の CW ID を送信します。

録音されているメッセージを削除する

1. トランシーバーを送信状態にして、マイクのキーで“メッセージの消去コマンド（工場出荷時は * 7777）”を押します。
2. トランシーバーの送信を止めます。
3. メッセージの消去が終わると、ダウンリンク周波数で“R (・ー・)”の CW ID を送信します。

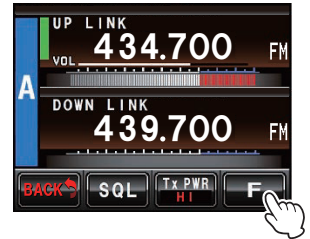
リモートコントロール

ボイスメッセージを自動で送信する間隔と回数の設定

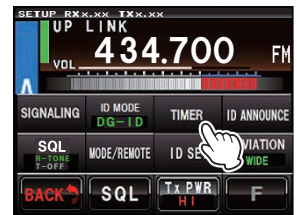
DR-2XJ に録音した音声メッセージを自動で送信する時の、送信間隔と送信回数を設定します。

メッセージの自動送信間隔の設定

1. CH-A または CH-B の [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



2. [TIMER] にタッチします。



3. [MESSAGE] にタッチします。
MESSAGE が選択されます。

4. もう一度 [MESSAGE] にタッチします。
[MESSAGE] 画面が表示されます。



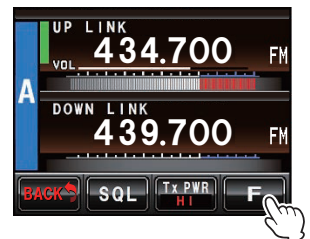
5. [PLAY INTERVAL] または [▲]/[▼] にタッチして、自動でメッセージを送信する間隔を選択します。
タッチするたびに送出間隔が切り替わります。
“0.5hour”、“1hour”（工場出荷時）、“2hours”、“3hours” から選択できます。



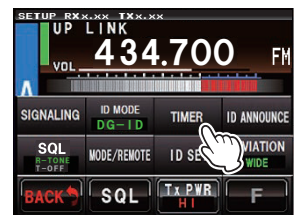
6. [BACK] に4回タッチすると初期画面に戻ります。

メッセージの自動送信回数の設定

1. CH-A または CH-B の [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。

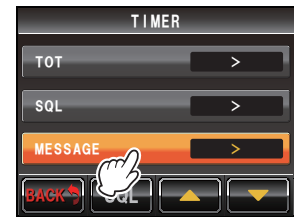


2. [TIMER] にタッチします。



リモートコントロール

3. [MESSAGE] にタッチします。
MESSAGE が選択されます。
4. もう一度 [MESSAGE] にタッチします。
[MESSAGE] 画面が表示されます。
5. [PLAY TIMES] にタッチします。
PLAY TIMES が選択されます。
6. [PLAY TIMES] または [▲]/[▼] にタッチして、自動でメッセージを送信する回数を選択します。
タッチするたびに送出回数が切り替わります。
“1time”、“2times”、“3times”、“5times”（工場出荷時）、“10times”、“20times”から選択できます。
7. [BACK] に4回タッチすると初期画面に戻ります。

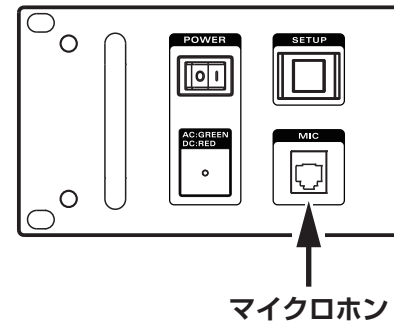


DR-2XJ でメッセージを録音する

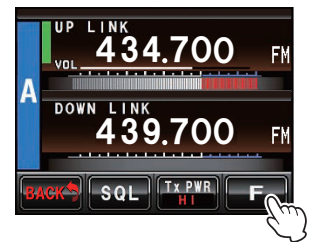
メッセージの録音を、他のトランシーバーからではなく、DR-2XJ 本体で録音することができます。

メッセージを録音する

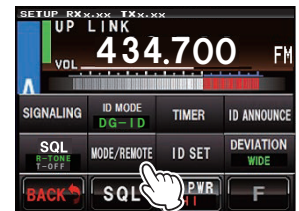
1. 前面の MIC 端子に、オプションのマイクロホンを接続します。



1. CH-A または CH-B の [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



2. [MODE/REMOTE] にタッチします。



3. [COMMAND] にタッチします。
COMMAND が選択されます。
4. もう一度 [COMMAND] にタッチします。
[COMMAND LIST] 画面が表示されます。

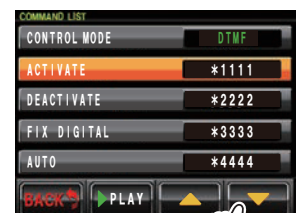


5. [CONTROL MODE] にタッチして “DTMF” を選択します。



6. [▼] にタッチします。
画面下の [◀▶] が [▶ PLAY] に変わります。

参考 [▶ PLAY] にタッチすると、現在録音されているメッセージを再生します
(送信状態にはなりません)。

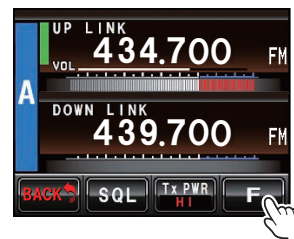


7. マイクロホンの PTT を押すと録音を開始しますので、マイクに向かってメッセージを話します。
 - ・ [▶ PLAY] が [● REC] に変わります。
 - ・ 録音時間は最大 60 秒です。
8. PTT を放すと録音を停止します。
9. [BACK] に 4 回タッチすると初期画面に戻ります。

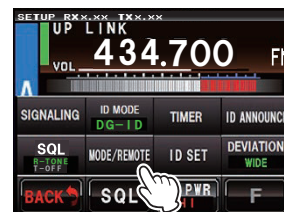
DR-2XJ でメッセージを録音する

録音したメッセージを再生して確認する

1. CH-A または CH-B の [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



2. [MODE/REMOTE] にタッチします。



3. [COMMAND] にタッチします。
COMMAND が選択されます。
4. もう一度 [COMMAND] にタッチします。
[COMMAND LIST] 画面が表示されます。
5. [CONTROL MODE] にタッチして “DTMF” を選択します。



6. [▼] にタッチします。
画面下の [◀▶] が [▶ PLAY] に変わります。

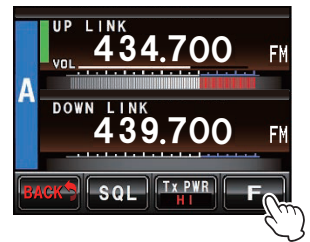


7. [▶ PLAY] にタッチすると、録音されているメッセージを再生します（送信状態にはなりません）。
8. [BACK] に4回タッチすると初期画面に戻ります。

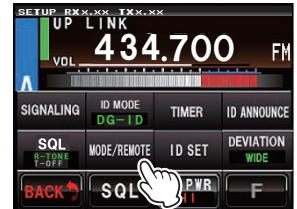
DR-2XJ でメッセージを録音する

録音されているメッセージを削除する

1. CH-A または CH-B の [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



2. [MODE/REMOTE] にタッチします。



3. [COMMAND] にタッチします。
COMMAND が選択されます。

4. もう一度 [COMMAND] にタッチします。
[COMMAND LIST] 画面が表示されます。



5. [CONTROL MODE] にタッチして “DTMF” を選択します。

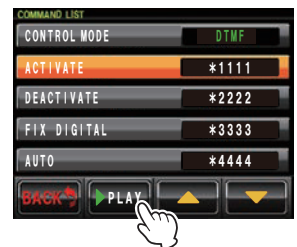


6. [▼] にタッチします。
画面下の [◀▶] が [▶ PLAY] に変わります。

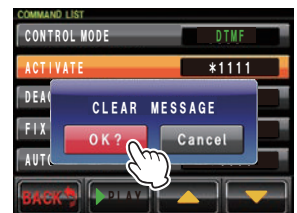
参考 [▶ PLAY] にタッチすると、現在録音されているメッセージを再生します
(送信状態にはなりません)。



7. [▶ PLAY] にタッチし続けると、確認画面が表示されます。



8. [OK?] にタッチするとメッセージが消去されます。



9. [BACK] に4回タッチすると初期画面に戻ります。

リモート操作

背面の CONTROL I/O コネクター（15 ピンミニ d-sub コネクター）を使用して、外部より本機のコントロールを行うことができます。

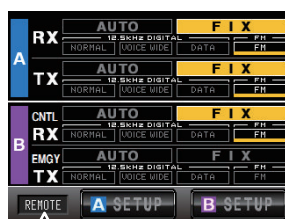
リモート操作を行うためには、下記の操作で本機のリモート操作をオンにしてください。

リモート操作をオンにした時の外部からの操作に関しては、次ページの表を参照してください。

リモート操作のオン / オフ

1. [SETUP] ➡ [F] ➡ [MODE/REMOTE] にタッチします。
メニューリスト画面が表示されます。
2. [REMOTE] にタッチして、“ON” または “OFF” を選択します。
タッチするたびに、“ON” ➡ “OFF” ➡ “ON”・・・と切り替わります。
3. [BACK] に 3 回タッチすると、設定が保存され初期画面に戻ります。
 - ・リモート機能がオンのときは、初期画面左下の “REMOTE” の表示色が白から赤に変わります
 - ・リモート操作は “CH-A” のみ有効です。
 - ・リモート操作は “HRI+REPEATER MODE” モードでは無効です。

参考



REMOTE

リモート OFF

REMOTE

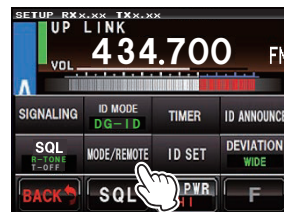
リモート ON で中継が有効な時

REMOTE

リモート ON で中継が無効な時

REMOTE

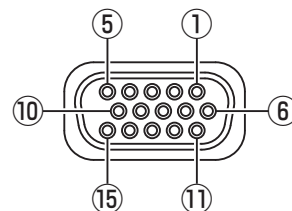
WIRES-X オペレーションが ON の時



外部からのコントロールは、本機背面の CONTROL I/O コネクター（15 ピンミニ d-sub コネクター）に市販のケーブルを接続してください。

注意

パソコンモニター用の VGA ケーブルは使用しないでください



リモート操作

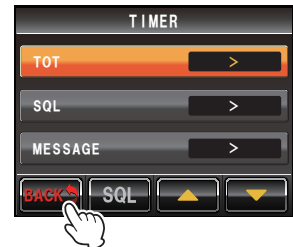
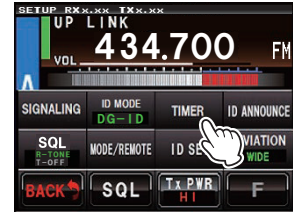
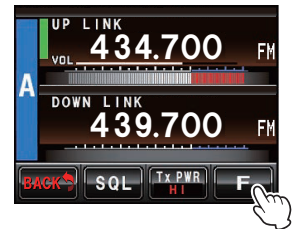
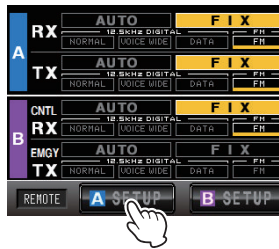
Pin番号	Pin名称	I/O	動作
1	EXT I/O	Input	[L] GND : リモートモード / [H] OPEN: レピータモード
2	PTT	Input	[L] GND : 送信 / [H] OPEN : 受信 外部PTT制御時のシグナリングについては、以下のようになります Pin 6 (TONE IN) : 有効 Pin 7 (AF IN) : 有効
3	CTCSS/DCS (PKSQL)	Output	[L] GND : 一致 / [H] OPEN : 不一致 UP LINK (受信) 信号のCTCSS/DCS設定と、本機のCTCSS/DCSの設定の状態を出力します
4	SQL DET (Noise SQL)	Output	[L] GND: スケルチオープン / [H] OPEN: スケルチクローズ UP LINK (受信) 信号のノイズスケルチの状態を出力します
5	GND	GND	GND
6	TONE IN	Input	外部PTT (Pin2) 制御時に、CTCSSまたはDCS入力 (600 Ω、500mVp-p) が有効になります このピンへの接続はシールド線を使用し、シールド側はGNDに接続してください
7	AF IN	Input	外部PTT (Pin2) 制御時に、外部からの音声信号入力 (600 Ω、1.5Vp-p、0~3,000Hz) が有効になります ボーレート (通信速度) を1200bpsから9600bpsに変更することができます34ページの「WIRES-Xモードへの切り替え」参照 このピンへの接続はシールド線を使用し、シールド側はGNDに接続してください
8	DISC OUT	Output	UP LINK (受信) のディスクリミネーター出力 (FM検波出力) を出力 (500 mVp-p、0~3,000Hz) します このピンへの接続はシールド線を使用し、シールド側はGNDに接続してください
9	AF OUT	Output	デエンファシスされたアップリンク信号の音声信号 (300mVp-p) を出力します
10	GND	GND	GND
11	EXT port 1	—	このピンは使用することができません
12	EXT port 2	—	
13	EXT port 3	Input	[L] GND : RX Toneオフ / [H] OPEN : セットアップモード
14	EXT port 4	Input	[L] GND : TX Toneオフ / [H] OPEN : セットアップモード
15	VCC	VCC	電源スイッチに連動し13.8V、2.0Aが出力されます

各種設定

SETUP（セットアップ）メニューを使うと、本機のさまざまな機能を運用スタイルにあわせてカスタマイズすることができます。

セットアップメニューの基本操作

1. [SETUP] ➡ [F] にタッチします。
2. [F] にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。
3. 設定したい項目にタッチします。
メニューリスト画面が表示されます。
4. 設定したいメニュー項目にタッチします。
5. 設定を変更します。
メニュー項目のタッチを繰り返すか [▲]/[▼] をタッチして、設定を変更します。
6. [BACK] にタッチすると、設定が保存されてセットアップメニュー画面に戻ります。
他の項目を設定したい場合は、続けて手順 3. ～ 6. を行ってください。
7. [BACK] に 2 回タッチすると、初期画面に戻ります。



トーン周波数の設定 (TONE SQL FREQ)

- 注意
・レピータ局で使用できるトーン周波数は 88.5Hz のみ認められていますので、88.5Hz 以外のトーン周波数に変更しないでください。
- ・CH-B でリモートコントロールをアナログ FM モードで行う際のセキュリティ強化のために設定します。

1. [B SETUP] → [F] → [SIGNALING] の順にタッチします。
2. [▲] または [▼] にタッチしてトーン周波数を選択します。
67.0Hz ～ 254.1Hz から選択できます。
3. [BACK] に 3 回タッチすると初期画面に戻ります。



DCS コードの設定 (DCS CODE)

- 注意
◎レピータ局では、トーン信号（周波数 88.5Hz）のみ認められていますので、DCS は使用しないでください。
- ◎DCS は、CH-B でリモートコントロールをアナログ FM モードで行う際のセキュリティ強化のために設定します。

1. [B SETUP] → [F] → [SIGNALING] の順にタッチします。
2. [DCS CODE] にタッチします。
3. [▲] または [▼] にタッチして DCS コードを選択します。
023 ～ 754 から選択できます。
4. [BACK] に 3 回タッチすると初期画面に戻ります。



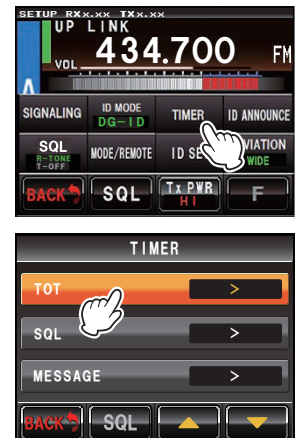
連続送信可能時間の設定 (TOT)

送信状態が続いたときに、あらかじめ指定した時間が経過すると自動的に送信を停止します。

1. [SETUP] → [F] → [TIMER] の順にタッチします。
[TIMER] 画面が表示されます。
2. [TOT] または [▲]/[▼] にタッチして、送信が停止するまでの時間を選択します。
タッチするたびに時間が切り替わります。
“30sec”、“1 min”、“1.5 min”、“2 min”、“2.5 min”、“3 min”（工場出荷時）、“4 min”、“5 min”、“10 min”、“OFF” から選択できます。

30sec ~ 10min	設定した時間送信を続けた場合、自動的に送信を停止します
OFF	送信は停止しません

3. [BACK] に 4 回タッチすると初期画面に戻ります。



スケルチ開閉レベル差の設定 (SQL HYSTERESIS)

スケルチ開閉レベルに差をつけることができます。

1. [SETUP] → [F] → [TIMER] の順にタッチします。
[TIMER] 画面が表示されます。
2. [SQL] に 2 回タッチします。
3. [SQL HYSTERESIS] または [▲]/[▼] にタッチして、レベルの差を選択します。
タッチするたびにレベルの差が切り替わります。
“NORMAL”（工場出荷時）、“HIGH”、“MAX” から選択できます。

NORMAL	スケルチ開閉レベルは同じレベルです
HIGH	スケルチの開くレベルが、閉じるレベルより高くなります
MAX	HIGH の設定よりも、さらにスケルチの開くレベルが、閉じるレベルより高くなります

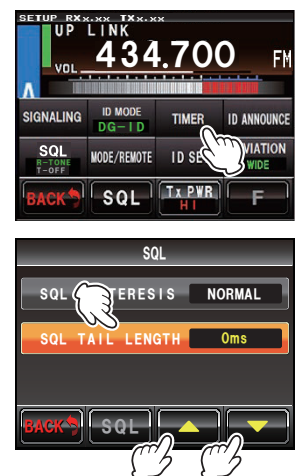


4. [BACK] に 4 回タッチすると初期画面に戻ります。

DOWN LINK 送信停止タイミングの設定 (SQL TAIL LENGTH)

UP LINK (受信) 信号が無くなってから、DOWN LINK (送信) の送信を停止するまでの時間を設定することができます。

1. [SETUP] → [F] → [TIMER] の順にタッチします。
[TIMER] 画面が表示されます。
2. [SQL] に 2 回タッチします。
3. [SQL TAIL LENGTH] にタッチします。
SQL TAIL LENGTH が選択されます。
4. [SQL TAIL LENGTH] または [▲]/[▼] にタッチして、送信が停止するまでの時間を選択します。
タッチするたびに時間が切り替わります。
“0ms”（工場出荷時）～ “500ms”（50ms ステップ）、“500ms” ～ “2500ms”（100ms ステップ）から選択できます。
5. [BACK] に 4 回タッチすると初期画面に戻ります。



各種設定

ID（コールサイン）のアナウンスモード設定（ANNOUNCE MODE）

ID（コールサイン）のアナウンスモードを設定することができます。

1. [SETUP] → [F] → [ID ANNOUNCE] の順にタッチします。
2. [ANNOUNCE] にタッチします。
[ANNOUNCE] 画面が表示されます。
3. [ANNOUNCE MODE] または [▲]/[▼] にタッチして、アナウンスモードを選択します。
タッチするたびにアナウンスモードが切り替わります。
“CW”（工場出荷時）、“CW woTONE”、“VOICE”、“VC woTONE” から選択できます。

CW	モールス符号でアナウンスします
CW woTONE※	トーンおよび DCS を含まないモールス符号でアナウンスします※
VOICE	音声でアナウンスします （オプションのボイスガイドユニット FVS-2 が必要です）
VC woTONE※	トーンおよび DCS を含まない音声でアナウンスします※ （オプションのボイスガイドユニット FVS-2 が必要です）

※：レピータ局では UP LINK のトーン信号（周波数 88.5Hz）のみ認められています。

注意

“CW woTONE” または “VC woTONE” を選択すると、TOT の時間は “3 min”、INTERVAL の時間は “10min” に固定されます

4. [BACK] に 4 回タッチすると初期画面に戻ります。



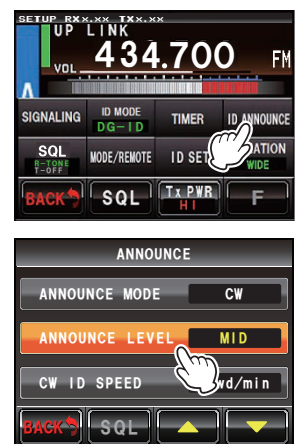
ID（コールサイン）のアナウンスレベル設定（ANNOUNCE LEVEL）

ID（コールサイン）をアナウンスする際の音量レベルを設定することができます。

1. [SETUP] → [F] → [ID ANNOUNCE] の順にタッチします。
2. [ANNOUNCE] にタッチします。
3. [ANNOUNCE LEVEL] または [▲]/[▼] にタッチして、アナウンス送出レベルを選択します。
タッチするたびにアナウンス送出レベルが切り替わります。
“HIGH”、“LOW” “MID”（工場出荷時）、から選択できます。

HIGH	高い音量レベルでアナウンスします
LOW	低い音量レベルでアナウンスします
MID	中間の音量レベルでアナウンスします

4. [BACK] に 4 回タッチすると初期画面に戻ります。



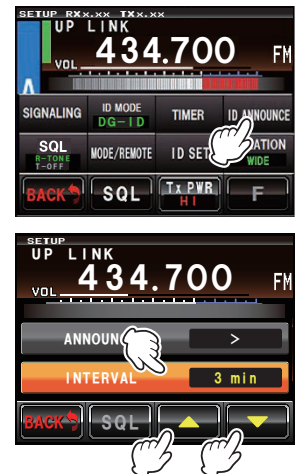
ID（コールサイン）のアナウンス送出間隔の設定（INTERVAL）

ID（コールサイン）をアナウンスする間隔を設定することができます。

1. [SETUP] → [F] → [ID ANNOUNCE] の順にタッチします。
2. [INTERVAL] にタッチします。
INTERVAL が選択されます。
3. [INTERVAL] または [▲]/[▼] にタッチして、アナウンスの送出間隔を選択します。
タッチするたびに送出間隔が切り替わります。
“3 min”、“5 min”、“10min”（工場出荷時）、“15min”、“20min”、“30min”、“EVERY”、“TOT”、“OFF” から選択できます。

3min ~ 30min	設定した時間が経過するたびにアナウンスを行います
EVERY	送信を停止するたびにアナウンスを行います
TOT	TOT 機能が動作して送信が停止したときにアナウンスを行います
OFF	アナウンスは行いません

4. [BACK] に3回タッチすると初期画面に戻ります。



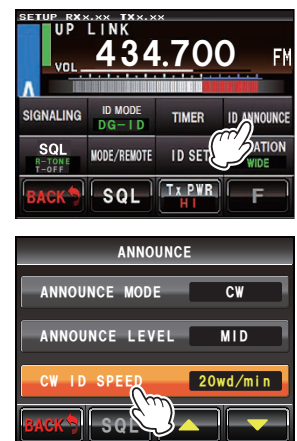
CW ID の送出スピードの設定（CW ID SPEED）

ID（コールサイン）のアナウンスを CW（モールス符号）で送出する際の、送出スピードを設定することができます。

1. [SETUP] → [F] → [ID ANNOUNCE] の順にタッチします。
2. [ANNOUNCE] にタッチします。
[ANNOUNCE] 画面が表示されます。
3. [CW ID SPEED] にタッチします。
4. [CW ID SPEED] または [▲]/[▼] にタッチして、送出スピードを選択します。
タッチするたびに送出スピードが切り替わります。
“16wd/min”、“20wd/min”（工場出荷時）、“24wd/min”、“32wd/min” から選択できます。

wd/min（wpm：Word Per Minutes）とは？
参考 5文字の単語を1分間に何単語送出するか、ARRL が定めたキーイングスピードの単位基準です

5. [BACK] に4回タッチすると初期画面に戻ります。



各種設定

トーン / DCS の切り替え (SQL)

注意

- ◎ レピータ局では、UP LINK のトーン信号（周波数 88.5Hz）のみ認められていますので、88.5Hz 以外のトーン周波数や DCS への変更および、DOWN LINK のトーン信号や DCS の設定は行わないでください。
- ◎ CH-B でリモートコントロールをアナログ FM モードで行う際のセキュリティ強化のために設定します。

1. [B SETUP] → [F] → [SQL] の順にタッチします。
2. [▲] または [▼] にタッチして信号方式を選択します。
タッチするたびに信号方式が切り替わります。
“OFF”（工場出荷時），“TONE”、“DCS”、“T-CALL”、“T-CALL+TONE”、“T-CALL+DCS” から選択できます。



TONE	トーン信号を送出します。
DCS	DCS コードを送出します。
T-CALL	
T-CALL+TONE	通常は選択しないでください。
T-CALL+DCS	
OFF	トーン信号や DCS コードは送出しません。

3. [BACK] に 3 回タッチすると初期画面に戻ります。

リモート機能のオン / オフ (MODE/REMOTE → REMOTE)

26 ページの「リモート操作のオン / オフ」を参照してください。

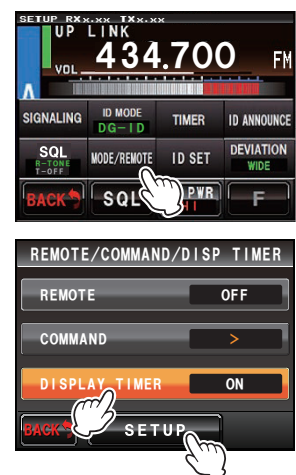
リモートコントロールの設定 (MODE/REMOTE → COMMAND)

- リモートコントロールのモード設定 → 17 ページの「リモートコントロールのモード設定」を参照してください。
コントロールコマンドを変える → 19 ページの「コントロールコマンドを変える」を参照してください。

自動で画面表示をオフにする (DISPLAY TIMER)

一定の時間何も操作がなかった場合、自動的に画面表示をオフにすることができます。

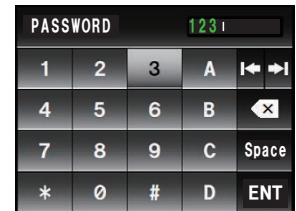
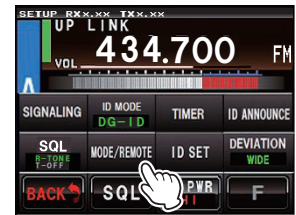
1. [SETUP] → [F] → [MODE/REMOTE] の順にタッチします。
2. [DISPLAY TIMER] にタッチします。
DISPLAY TIMER が選択されます。
3. [DISPLAY TIMER] にタッチして “ON” にします。
4. [SETUP] にタッチします。
DISPLAY TIMER 画面が表示されます。
5. [TIMER] にタッチして、画面が消えるまでの時間を選択します。
タッチするたびに時間が切り替わります。
“1min”（工場出荷時），“5min”、“10min”、“30min” から選択できます。
設定した時間何も操作がなかった場合、自動的に画面表示がオフになります。
6. [BACK] に 4 回タッチすると初期画面に戻ります。



パスワードを設定する (PASSWORD)

電源をオンにした時や自動でオフになった画面を表示させる時にパスワードを入力しないと DR-2XJ が動作しないようにすることができます。

1. [SETUP] → [F] → [MODE/REMOTE] の順にタッチします。
2. [DISPLAY TIMER] にタッチします。
DISPLAY TIMER が選択されます。
3. [DISPLAY TIMER] にタッチして “ON” にします。
4. [SETUP] にタッチします。
DISPLAY TIMER 画面が表示されます。
5. [PASSWORD] にタッチします。
PASSWORD が選択されます。
6. もう一度 [PASSWORD] にタッチします。
パスワード入力画面が表示されます。
7. 4桁の数字を入力します。
自動で [DISPLAY TIMER] 画面に戻ります。
8. [BACK] に4回タッチすると初期画面に戻ります。



◎ 工場出荷時は “0000” に設定されています。

参考

◎ パスワードを忘れた場合は、DR-2XJ をリセット (初期化) する必要があります。初期化すると DR-2XJ の全ての設定が工場出荷時の状態に戻りますので、設定したパスワードは忘れないようにしてください。

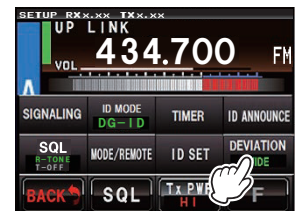
ID (コールサイン) の入力 (ID SET)

12 ページの「ID (コールサイン) を登録する」を参照してください。

変調レベルの設定 (DEVIATION)

変調レベルを通常の約半分にすることができます。

1. [SETUP] → [F] の順にタッチします。
セットアップ画面が表示されます。
2. [DEVIATION] にタッチして、変調レベルを選択します。
タッチするたびに、変調レベルが切り替わります。
“WIDE” (工場出荷時) ⇨ “NARROW” ⇨ “WIDE” . . .



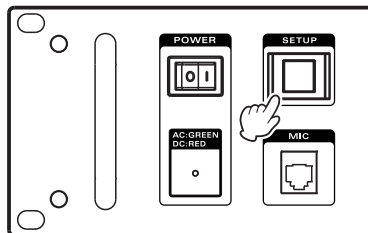
WIDE	通常の変調レベルです
NARROW	変調レベルが通常の約半分になります

3. [BACK] に2回タッチすると、初期画面に戻ります。

WIRES-X モードへの切り替え

1. 本機の電源をオフにします。
2. パネル面の **SETUP** ボタンを押しながら電源をオンにします。

注意 オープニング画面が表示されたら、3秒以内に **SETUP** ボタンを離してください。

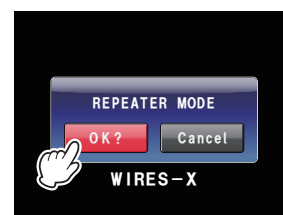


3. 確認画面の **[OK?]** にタッチします。
中止したい場合は **[Cancel]** にタッチします。
4. WIRES-X モードに切り替わります。



5. レピータモードに戻す場合は、再度手順 1. ～ 3. を行ってください。

注意 手順 2. でオープニング画面が表示されたら、3 秒以内に **SETUP** ボタンを離してください。



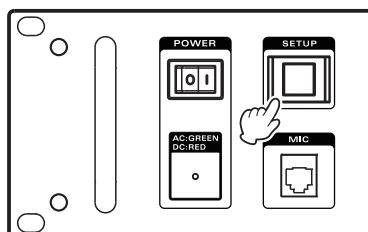
リセット操作

1. 本機の電源をオフにします。

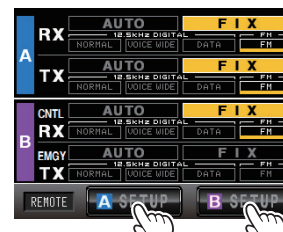
注意 本機が WIRES-X モードの場合はリセットすることができません。
レピータモードに切り替えてからリセット操作を行ってください。

2. パネル面の **SETUP** ボタンを押しながら電源をオンにします。

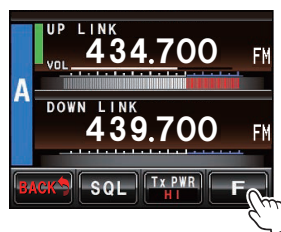
注意 初期画面が表示されるまで **SETUP** ボタンを押したままにしてください。



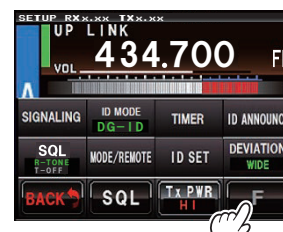
3. **[SETUP]** にタッチします。
セットアップ画面が表示されます。



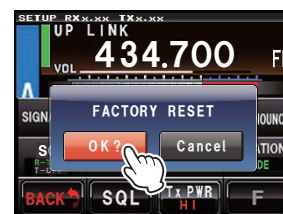
4. **[F]** にタッチします。
セットアップメニュー画面が表示されます。



5. **[F]** にタッチします。
リセット確認画面が表示されます。



6. **[OK?]** にタッチします。
リセットを中止したい場合は **[Cancel]** にタッチします。
7. 本機がリセットされ、セットアップ画面が表示されます。
リセット後は、必ずコールサイン (ID) を登録してください 12 ページの「ID (コールサイン) を登録する」参照。



ボイスガイドユニット FVS-2 の装着

オプションのボイスガイドユニット “FVS-2” を装着すると、音声で ID（コールサイン）をアナウンスしたり、メッセージを録音して送信することができます。

30 ページの「ID（コールサイン）のアナウンスモード設定（ANNOUNCE MODE）」参照、20 ページの「ボイスメッセージ」を参照してください。

1. 本機の電源をオフにします。
2. 本機に接続している全てのケーブル類を外します。
3. 上面カバーのねじ（15 本）を外して、カバーを外します（図 1）。

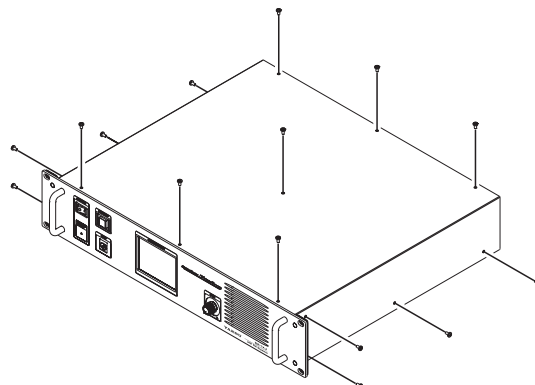


図 1

4. 受信ユニット上面カバーのねじ（4 本）を外して、カバーを外します（図 2）。

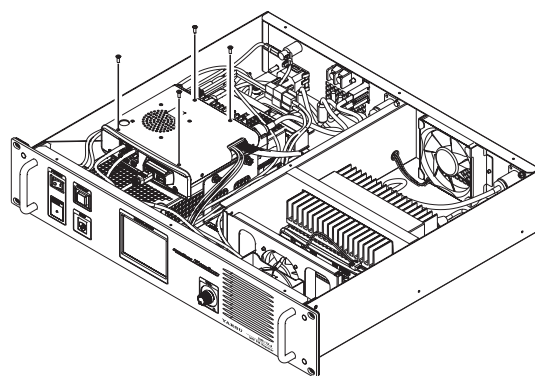


図 2

5. 図 3 で示すコネクタに FVS-2 を取り付けます。

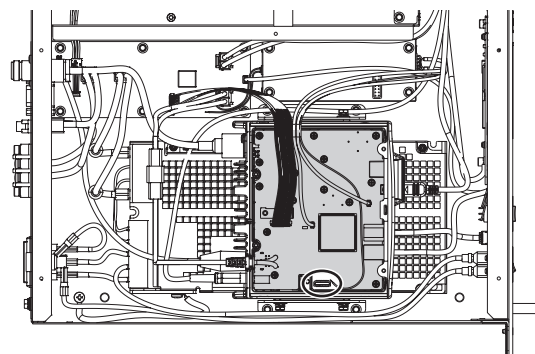


図 3

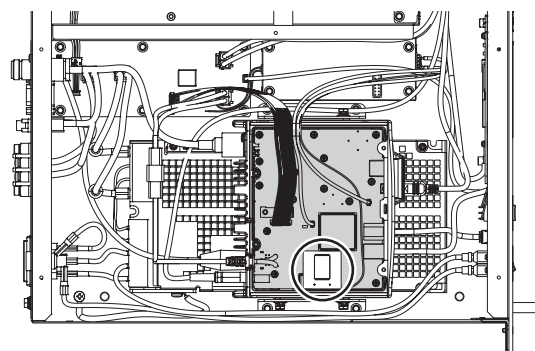


図 4

6. 受信ユニットのカバーと本機のカバーを元に戻します。
7. 外した全てのケーブル類を接続します。

アフターサービスについて

◎ **保証期間はご購入の日から 1 年間です**

本製品には保証書を添付しております。ご購入いただいた日から 1 年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理をお引き受けいたします。

◎ **保証書は大切に保管してください**

保証書を紛失された場合は、保証期間中に発生した故障でも、保証期間が過ぎたものとして有償でのお取り扱いとさせていただきます。

また、販売年月日・販売店名などの必要事項が記入されていない保証書は無効として扱わせていただきます。ご購入の販売店名や年月日などが正しく記入されているかご確認ください。

◎ **保証期間が過ぎてからの故障もご相談ください**

修理により機能が維持できる場合には有償で修理させていただきます。ご購入の販売店、または当社カスタマーサポート（下記参照）にご相談ください。

◎ **梱包箱も大切に保管してください**

修理や点検のために本製品を運搬する場合には、運搬中の事故やトラブルを防ぐため、ご購入時の梱包箱をご使用ください。

製品の改良のため、取扱説明書のイラストなどが一部製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

お問い合わせ

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0570-088013

受付時間 平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

お問い合わせの際には、本体背面に貼ってあります銘板に記載の製品番号を必ずお知らせください。

一般定格

周波数範囲	: 430MHz ~ 440MHz
電波型式	: F2A、F2D、F3E
周波数安定度	: $\pm 2.5\text{ppm}$ 以内 ($-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$)
アンテナインピーダンス	: $50\ \Omega$
電源電圧	: AC 100V ~ 240V DC 11.7V ~ 15.8V (マイナス接地)
消費電流	: AC 約 2A (最大) @100VAC DC 約 1.5A (受信時) 約 5A (10W 送信時)
使用温度範囲	: $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$
ケース寸法 (幅×高さ×奥行き)	: 482 × 88 × 380 (mm)
本体重量	: 約 10kg

送信部

送信出力	: 10/5/1W
変調方式	: リアクトランス変調
不要輻射強度	: -60dB 以下

受信部

受信方式	: ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン
中間周波数	: 第一 IF 周波数 47.25MHz 第二 IF 周波数 450kHz
受信感度	: $0.2\ \mu\text{V}$ @12 dB SINARD
隣接チャンネル選択度	: 65dB 以上 (20kHz オフセット)
選択度	: 12kHz/35kHz (-6dB / -60dB)
相互変調	: 65dB 以上 (20kHz/40kHz オフセット)
低周波定格出力	: 4W@4 Ω 10% THD (@13.8V 内蔵スピーカー)

定格値は常温・常圧時の値です。

製品改良のため、定格・仕様を予告なく変更する場合があります。

その他

本機の申請方法やレピータ運用についてのご質問は、JARL（日本アマチュア無線連盟）へお問い合わせください。

JARL

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟 業務課

〒170-8073

東京都豊島区南大塚 3-43-1 大塚 HT ビル 6 階

E-mail : oper@jarl.org

「レピータ装置変更工事設計書」について

「レピータ装置変更工事設計書」は、下記を参考に ■ 部分を記入してください。

第一レピータ装置（取替・増設・撤去・変更（注））

コ ー ル サ イ ン	電 波 の 型 式	☒ F1D ☒ F2A ☐ F2B ☐ F2D ☐ F3C ☐ F3E ☐ F3F	送 出 方 法	☐ A 方式 ☐ EVERY ☐ B 方式（その他） ☐ インターバル
ハ ン グ ア ッ プ ・ タ イ ム	時 間	2.5 秒以内		
タ イ ム ア ウ ト ・ タ イ ム	時 間	3 分	方 式	☐ A ☒ B ☐ C （その他）
変 調 の 方 式	F3E：リアクタンス変調			遠 隔 操 作 の 方 法
終 段 管	名 称 ・ 個 数	RD70HUF2 x 1		
	電 圧 ・ 定 格 出 力	13.8V 10W		
		± 5kHz 以下		
最 大 周 波 数 偏 移				
製 造 社 名 等	製 造 社 名	八重洲無線株式会社	型 式	DR-2XJ

「レピータ局、アシスト局の公衆網との接続に関する届書」について

レピータ局に WIRES-X を接続する場合は「レピータ局、アシスト局の公衆網との接続に関する届書」を届ける必要があります。

届書の「3. 公衆網に接続するシステムの種類」の項目は、以下のように記載してください。

3. 公衆網に接続するシステムの種類

(1) FM（アナログ）レピータに接続の場合

☐ フォーンパッチ（IP 電話を含む）

☐ EchoLink

☐ WIRES-II

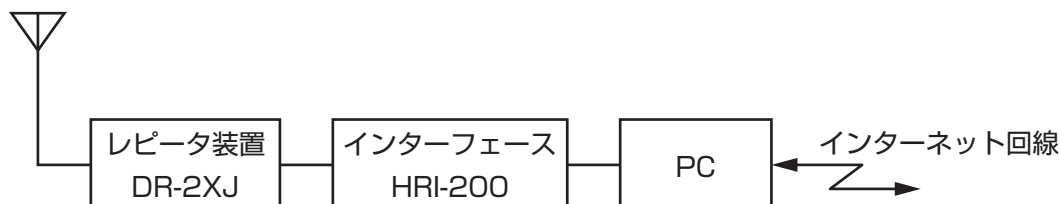
☐ IRLP

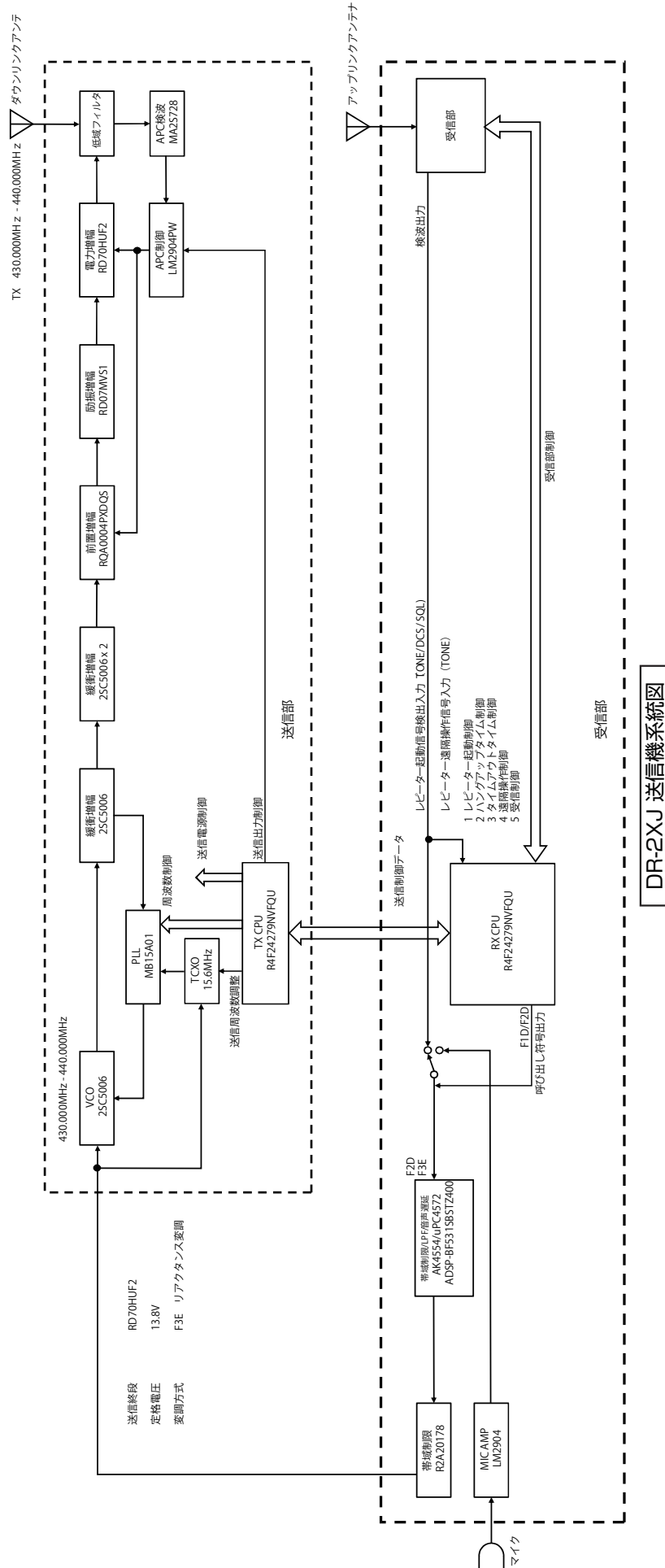
☐ eQS0

☒ その他（名称等 **WIRES-X（ノード番号 XXXXX）**）

「第1図 公衆網との接続の概要図」には、以下の図を記載してください。

第1図 公衆網との接続の概要図





YAESU

Radio for Professionals

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0570-088013

受付時間 平日9:00～12:00、13:00～17:00

八重洲無線株式会社 〒140-0013 東京都品川区南大井6-26-3 大森ベルポートD-3F



E H O 6 3 U 0 0 0

Printed in Japan 2512A-AS

©2025 八重洲無線株式会社 無断転載・複写を禁ず